令和２年度河童会総会（@Microsoft Teams ミーティング）議事録

目次（クリックしていただくとその項に移動します）

1. 開会
2. 河童会と水泳部の活動について（池上先生） p.2
3. 水泳部活動報告（前主将：青木） p.3-4
4. 外務から諸連絡（外務：黒須） p.5
5. 河童会の運営に関する決議（事務局：森井） p.6-7
6. 閉会（田島先生） p.7

２．河童会と水泳部の活動について（池上先生）

コロナはスポーツ界にも大きな影響を与えています。高校野球で３年生の最後の大会ができなかったということがニュース等で話題になっていますが、大学部活でも４年生は最後の、自分たちが中心になってやっていく試合等であったにも関わらず、ほとんどの試合が出来なくなってしまった、そのことは非常に残念というか悔しい想いをされていると思いますし、非常に気の毒なことだと思っています。大阪大学から、「非公式でも七大学戦の代わりに、今の４年生が卒業するまでに何かの大会ができないかということを計画しているんだけれども、協力してくれるか？」という連絡がありまして、「OB 会としては協力しますよ」という返事をしました。来夏のオリンピック開催も不安視する声もあるくらい、コロナの状況に大きく振り回されている現状ですが、名大水泳部の活動を再開できるみたいで、やっとそういう時期が来たということですね。４年生の学生さんは本来、七大学戦が終わって下の代に運営を渡すという時期ですが、それが出来なかったことは本当に気の毒だと思うのですが、仕方ないというか、しょうがないと思ってください。

河童会の使命と言いますか、成り立ちは、僕が多分２年生の頃に、OB の山田さん達が知恵を授けてくださって、「部の活動にもお金がいるだろうから、OB の人を紹介するから、そこを回って援助のお願いに行け」ということで、色々な所に行きました。そして、ある程度お金を集めて部の活動に使えるようにするというのと、OB を組織して正式に OB 会を作ろうというので、河童会ができました。その第一回の発足の会が夏に行われまして、名工商の OB で、オリンピックで金メダルを取った背泳ぎの清川さんも参加されまして、だからあのプールは金メダリストが泳いだプールなんですよ。現役の皆さん、それをよく覚えておいてください。河童会の使命は OB の交流を盛んにすることと、やっぱり現役の皆さんの応援をすることがあります。試合を応援に行ったり、経済的な面でもできる範囲で応援しようというのが目的です。僕らの頃は、４年生が終わればみんな選手としては引退して、専ら応援に回るというのが主でしたが、今はマスターズという大会に代表されるように、大学院に行ったり、大学を離れても試合に出るというのはどの種目でも当たり前になってきて、OB のクラブチームのような形でお世話をするというのも、河童会のミッションになってきたと思います。

今年は非常に変則的な状況で、特に４年生の皆さんにとっては気の毒な状況になってしまいましたが、これからも河童会としては名大水泳部の現役の皆さんの応援をします。OB 同士の交流を活発化させるということももちろん大事で、そこも含めて名大水泳部を応援していこうと思っています。来年はぜひ、東京オリンピックが開催されて、夏に交歓会ができること、プールサイドで河童会の総会ができることを願っています。４年生の皆さんは特殊な年に当たってしまって残念ですが、これからも水泳を頑張ってください。現役の皆さんは、そういう先輩の想いを糧にして、泳げるようになったら一生懸命練習して、進歩して、良い成果をあげていただきたいと思います。そして、OB の皆さんもぜひ、現役の皆さんを応援してやっていただきたいと思います。以上です。

３．水泳部活動報告（前主将：青木）※資料１を使用

現役活動報告　（発表者：4 回生主将青木翼）

（目次）

1. コロナウイルス感染症による部活動への影響
2. 自粛期間の水泳部活動内容
3. 代替わり
4. 今後の予定

1. 自粛期間中の水泳部活動内容

【大会等の中止】

・中止になった主な大会 ＝ 津田、名阪戦、東国、中部インカレ、全国公 etc.

・中止になった行事 ＝ 名大合宿、対面以外の新歓行事（SNS 利用の新歓は可）

・代替案・延期案を検討中

※9/17~日本学生選手権（インカレ）は予定通り開催され、名古屋大学にも参加枠が与えられたが、大学の方針、練習状況、部員の感染リスクを考えエントリーを辞退。

【活動推移】

2/28~　課外活動停止の指示　(7 月中旬まで)

予期せぬコロナウイルス感染症で、学生生活、日常生活が変化し、すぐには対応できなかった。相次ぐ大会の中止でモチベーションを保つことが困難に。4 年生にとっては実質引退という状況に。

7/14~28 部活動再開

感染対策を徹底した上で制限付きの部活動が可能に。

5 ヶ月ぶりの部活

＜制限＞

・8 人以下　　・接触プレーの禁止

・1 人 1 時間　　・会食の禁止　　etc.

7/28~8/31 部活動が再び禁止に

愛知県内のコロナウイルス感染症拡大により、部活動が再び中止に。

学業面では、対面でのテストも中止に。

9/3 ~　　部活動再再開（第二波収束）

第二波収束により、上記の制限付きで部活動が可能に。

2. 自粛期間中の水泳部の活動

以下のオンライン(特に ZOOM)を活用した新しい部活のあり方を開拓

・オンラインミーティング（ZOOM 等の活用）

・ブログの再開
・ＳＮＳを使った新歓（4 人の新入部員）
・オンラインでライブトレーニング
・経験者からの家でもできるトレーニングメニューの提供（水球）
Etc.
部員も徐々にオンライン化、リモート化に対応

3. 代替わり
・引退理由 ＝ 新チームの早期始動のため。
・心情 ＝ 悔しさ、悲しさ、喪失感、
・今後の活動 ＝ 一部の部員が冬に延期されている七大戦参加予定

4. 今後の予定
【大会予定】
12 月　競泳七大戦　@秋葉山プール
12 月　水球七大戦　@開催場所未定
12 月　名南戦
【変更点】
12～2 月　予算都合により名大プール利用不可
【チーム活動方針】
<u>活動禁止時</u>
・個人練習の推奨（自宅での筋トレや市民プールでのスイム）
・定期的なミーティングの開催（zoom などの活用）
<u>活動再開後</u>
・競技レベルの回復　→　各々目標を設定
・部活内でクラスターが発生しないような感染対策
【チーム目標】
競泳
七帝戦男女ともに 3 位
4 月の津田で全員ベスト
水球
名阪戦・七帝戦の優勝
インカレ出場

４．外務から諸連絡（外務：黒須）※資料２を使用

外務活動報告　（発表者：3 回生外務 黒須諒）

【出版社変更】

今年度より冊子『河童』出版社の変更

	変更前	変更後
出版社	向文堂	アクセア栄店
値段	25~30 万円	3 万円
編集	業者への委託	現役部員による編集
印刷	オフセット印刷※ （※100 部以上の大部数印刷向き）	オンデマンド印刷※ （※100 部以下の小部数印刷向き）

【今年度外務紹介】

今年度外務：2 回生黒田裕也　2 回生三谷夏帆

５．河童会の運営に関する決議（事務局：森井）※資料３を使用
皆様から河童会年会費と支援金としていただきましたお金の使い道についてです。
今まで、皆様からお預かりしたお金は、河童の製作、会員の皆様へのご案内、河童会と新年会または忘年会の開催に使われておりました。外務からも報告がありましたように、河童の製作費用が抑えられたということと、時代の変化に合わせた形で皆様へのご案内の方法を希望される方以外は郵送をやめるという変更をしましましたので、支出が今後抑えられると予想されます。その分のお金を、名古屋大学水泳部への援助として使わせていただきたいと考えております。池上先生からも冒頭でお話しいただきましたように、本会は会員相互の親睦を図ることおよび、名古屋大学水泳部への援助を目的としております。この目的にも沿った使途であると思います。具体的には、今年は 12 月から 2 月まで大学のプールが使えない期間、外部のプールを使うことになると思いますので、その費用の一部を支援するなどの方法があると思います。支援実績は冊子「河童」で会員の皆様にご報告するとともに、外務が作ってくれたホームページでもご紹介できると思います。これは会の運営に関する諸事項に該当すると考えておりまして、本会にご出席いただいた正会員の皆様の過半数の承認をもって決定されます。本来、賛成いただける方に意思表示をしていただくのが良いと思うのですが、オンライン総会の形式上難しいので、ご意見やご質問のある方は挙手の上でご発言いただけますでしょうか。

（発言：大沢さん）
賛成します。

（発言：池上先生）
もちろん賛成ですが、こういう IT が進んだ時代なので、なるべく水泳部の活動状況もネットで見られるようにしたら良いですね。それから河童も紙で印刷したのが欲しいという人もまだいると思いますから紙は紙で作ったら良いのですが、名大水泳部のホームページから PDF でダウンロードできるようにしてはどうかと思います。紙は必要ない人もいると思いますから、ネットも利用してなるべくお金を節約して、それを水泳部の活動に回せればいいと思います。ただし、外務が中心になって編集をすることがあまり負担になってはね。現役部員は勉強する以外に水泳もやるわけですから、そんなに時間的なゆとりはないので、あまり負担がかかるようだったらある程度業者に任せても良いかもしれません。新しい印刷所に切り替えたように業者を選べば、ちょっと質は落ちるかもしれませんが、うんと安くできると思うので。ただ一つだけ心配するのは、あまり現役の人に負担がかかってはいけない。名大水泳部は勉強することと、水泳をやることに集中した方が良いと思うので。だからできる範囲でやって、支障があるようだったらまたみんなで考えましょう、そういうことでどうでしょうか。

（森井）

貴重なご意見、ありがとうございます。

今後の河童の製作につきまして、具体的にどのような形をとるかということは、これからの外務をはじめとする水泳部員の子たちと話し合って決めていくことになると思います。本提案にはご賛成いただけるということですので、今後は、皆様からいただいた会費と支援金から必要経費を除いた分は名古屋大学水泳部の援助に回す、という形をとらせていただきたいと思います。ですから、「応援したいよ」というお気持ちは、ぜひ河童会の方に振り込んでいただければと思います。ご協力のほどよろしくお願いいたします。

６．閉会（田島先生）

外務の皆さん、ありがとうございます。主将の青木さん、一年間お疲れ様でした。

今年はコロナウイルスのおかげで色々想定外のことがあって、大変だったと思います。私もできるだけのことはしたつもりですけれど、十分なことは出来なかったかなと思っています。この状況の中でも皆さん工夫して、オンラインのツール等を利用して部員間のコミュニケーションを図っていたということで、非常に良かったと思います。このようなことが起こると、孤立しがちで精神的につらかった方もいらっしゃるのではないかと思いますが、部活等で意思疎通が図れるということは、重要な、精神的にも良い面があったのではないかと思います。これはすぐに解決できない問題で、１年くらい続くかなという気持ちでやるしかないのかなと思いますので、皆さん難しい状況ではあると思うのですが、創意工夫をして、今後も協力して頑張っていただきたいと思います。河童会の方でも、今の話にもありましたように、できることは支援していきたい、支援していくべきだと思いますので、部員の皆さんで河童会に支援して欲しいことがあれば、積極的に発信していただけたらなと思います。以上です。